興照寺報

平成26年3月
53号

発行　浄土真宗　興　照　寺
〒890-0045　鹿児島市武一丁目25番12号
電話099-254-3269 (代)FAX099-254-0303

一面　光に照らされて
二面　クイズ　浄土真宗　①
三面　秋季永代経・報恩講のお話
四面　諸案内・門徒会費のお願い等

昨年十二月五日に新館（七階建て）の窓の掃除をしてもらいました。平成十四年に建って以来、初の高所作業にハラハラしながら下から眺めていました。

光に照らされて

三十年前吹上に来て闇夜に懐中電灯をあて、その光線があまりに真直ぐに夜空に吸い込まれるように延びていく様を見て妻と感動した記憶があります。裏を返せば市内に生まれ育ちどれだけ光に満ち溢れていた環境に居たか気付かなかったことになります。

科学雑誌を見ていますと宇宙飛行士のほとんどの方が宇宙は深黒の闇の世界であると言っています。その中に青い地球が輝き浮かんだように見えるそうです。今まで私は宇宙は太陽に照らされて明るいところというイメージを持っていたので深黒の闇の世界とは意外でした。光の原理として光はその対象物に接して初めて光としての働きを発するのだそうです。ですから何も無い真空の宇宙ではその働きは起きず深黒の闇の世界のままなのです。

阿弥陀様は、光の仏様であるといわれます。光であるということはその対象に成るものが無いと働きが出来ないということになります。その光の対象とはこの私であります、この私を目当てにこの私を救い取りたいがために光り続けておられるのです。しかし悲しいことに三十年前の私のようにどれだけ光に満ち溢れていた環境に居るのか気付かずに居るのではないのでしょうか。闇は光に出遭って初めて破られます。そして光りは反射して周りにも光りを放ちます。光に目覚めて私が輝けば周りの世界も輝いていくのです。お念仏はそのような願いの中に響きわたると思います。

クイズ 浄土真宗 ①

Q1、浄土真宗の信心は次のどれ？
イ、あれこれ考えず信じ込むこと
ロ、雑念を払い、心を集中すること
ハ、仏の救いを疑わなくなった心

「信心」と言えば、自分の心を操作してある特定の方向に持っていくことのように思われがちです。そこから「信心が足りない」とか「私は信じていませんが…」といった言い方がなされるのでしょう。

（イ）は、「いわしの頭も信心から…」のように、信じる対象は何であっても、信じること自体に意味があるというものでしょうが、私の行為になっています。

（ロ）の「雑念を払い、心を（仏様の方へ）集中する」というのが信心ならば、これも私の行為になってきますし、それが常にできる人は稀です。

ところが、**浄土真宗の信心は、阿弥陀仏のお心を聞くことによって、自ずと具わる性質のもので、私が「信じ込もう」とする行為ではありません。**「信」は「まこと」という意味もあるように、**阿弥陀仏の真実のお心を聞いて、私自身の中に芽生える「（阿弥陀仏の救いを）疑わなくなった心」**が「信心」です。自分自身の力や知恵で信心を構築していくのではなく、自己中心的な殻を打ち破り、真実を知らしめて救い取ろうとされる仏様のお心を受け取るのです。親鸞聖人は、それを「**如来から賜りたる信心**」とおっしゃいました。

【答、ハ】

これは、**身の隅々まで煩悩が沁みわたり、自らの力ではとてもその煩悩を取り除くことができない私たちのこと**をおっしゃっておられるのですが、この「凡夫」の自覚は、人間社会という枠を超え、もっと普遍的根源的な真実に照らされて初めてめばえる性質のもので、その凡夫をさして「悪人」と親鸞聖人はおっしゃったのです。そうした放っておけない「悪人」だからこそ、阿弥陀仏は本願を起こされ、救おうとされたのだと受け取られたのでした。法律に違反したとか、道徳的倫理的に望ましくない考え方や言動を行ったとかで言われる「悪人」は、人間社会を前提とした話です。しかし、**親鸞聖人がおっしゃる「悪人」は、誰もが本質的にもっている自己中心的な執着心を捨てきれない私たちのこと**だったのです。

【答、イ】

Q2、親鸞聖人の言う悪人とは？
イ、煩悩を消し去れない私
ロ、いわゆる犯罪者
ハ、他人の迷惑を考えず、常に自分本位に行動する人

親鸞聖人は、「凡夫というは無明煩悩われらが身にみちみちて、欲も多く、怒り、腹立ち、そねみ妬む心多くひまなくして、臨終の一念に至るまで止まらず、消えず、絶えず」と述べられています。

Q3、浄土に生まれた人はどうしている？
イ、安らかに眠っている
ロ、仏となって、常に私たちを救おうとしている
ハ、悪いことをすると罰をあてる

「極楽浄土と言うぐらいだから、毎日楽しく暮らしている」と思う人がいるかも知れませんが、決して浮かれた楽しさではありません。

この世の縁が尽きたら、**時を隔てず浄土に生まれ、阿弥陀仏と同じ仏になられているのです。そして、迷い続ける私たちを救うために、はたらき始められるのです。**亡き人が浄土に生まれて仏になられるのも、救いの活動をされるのも阿弥陀仏のはたらきによるものであり、それが阿弥陀仏の救いの内容なのです。気になる人を放っておいて、自分だけ浄土で安穏と暮らすことなどできないのが私たちの心情です。それを解決してこそ、本当の救いと言えるのでしょう。

なお、（ハ）のように、罰をあてるようなことは、どの仏さまもなさいません。

【答、ロ】

（末本弘然著「クイズ浄土真宗」探求社より）

秋季永代経法要

講師　北川　顕正　先生

浄土真宗のみ教えは罪悪深重煩悩熾盛の衆生を救わんがためのみ教えです。罪悪深重煩悩熾盛の衆生とはこの私のことです。つまりこの私を救わんがためのお法です。勿論、仏教はお釈迦様の教えです。お釈迦様は〝私は何者か〟と問い続けられ、分別の中でしか生きられない私であるがその分別から開放されていく者であり、それは自分自身を含む全てのものを、ありのまま全部受け入れることであるという大きな目覚めをされ仏陀（悟りを開かれた方）となられたのです。つまり、仏教があり教えを頂いて初めて信心を頂くのではなくて、お釈迦様の悩み（私で言えば煩悩）があればこそ仏教の教えが始まったということになります。

お念仏で言うと、総ての者を救うというお働きがお念仏でありますが、お念仏が出るようになってこそ、仏様に認められ救われる身になったのではなく、〝仏かねてしろしめして、煩悩具足の凡夫とおおせられたることなれば、他力の悲願は、かくのごときのわれらがためなり〟と親鸞聖人が仰せのように仏様の働きが先で、私の身に沁み込んで働いてくださっており、いつのまにかこの働きに催され〝南無阿弥陀仏〟とお念仏が出る身とさせていただいたのです。譬えると、春になると桜が咲き、ウグイスが啼き出しますが、桜が咲き、ウグイスが啼き出したから春になったのではないのです。自然の春の風に催され、春の働きが先で、桜が咲き、ウグイスが啼き出すのです。

つまり、お念仏をして救われるのではなく、お救いの方が先だからこそお念仏をさせて頂く身となるのです。教があつて、煩悩具足の私が居るからこそ、仏様のお働きが自然と働いて下さったのです。そのことを親鸞聖人は〝弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとえに親鸞一人がためなりけり。されば、そくばくの業をもちける身にてありけるを、たすけんとおぼしめしたちける本願のかたじけなさよ〟と歓ばれておられるのです。

報恩講法要

講師　藤岡　孝教　先生

他の宗派はみんな、こちらの方からお願いをし、おすがりし、頭を下げ、祈っています。「どうぞ私を救ってください。どうぞ私を照らしてください」とお願いをしています。ところが親鸞様は、「それは違うぞ。『南無』とは、こちらからお願いをしていくのではない。阿弥陀如来様が私を呼んで下っているのだ」と味わっていかれました。それが「帰命」の味わいです。「帰命」→「帰る命」、「命」とは「仰せ」のことです。だから「帰命」とは「帰って来いよと呼んでくださること」です。それが仏様のおはたらきです。こちらからお願いするのではなく、阿弥陀如来様が「お浄土の世界へ帰って来いよと私を呼んでくださっている」、その「仰せ」を聞かせていただくのが浄土真宗です。願うのではない、私が願う前に私のことを願い、温め、育て「我よく汝を守らん」と呼びかけていてくださる。親鸞様は、この如来様の救いに遇ったことの喜びを人々に伝えずにはおれなかったと言って、七文字ずつ百二十句に渡って「正信偈」をお書きくださった。親鸞様が「正信偈」をお書きになったお心持ちは、決して悲しみの上ではなく、「我こそは如来の本願に遇い、仏様の救いに遇った。この喜びを伝えずにはおれません。書かずにはおれません」と言って「帰命無量寿如来南無不可思議光（光といのち極みなし　阿弥陀仏を仰がなん）」と「正信偈」の最初にお書きくださったのです。

私たちは、何のためにこの世に生まれてきたのでしょうか。命終わったらどこへ行くのでしょうか。私たちは、仏様の教えに遇わせていただくために、人間としてこの世に生まれさせていただいたのではないでしょうか。命終わったら「いのち」の故郷であるお浄土へ帰らせていただいて、仏に成らせていただく。この身の幸せを喜ばせていただきましょう。

（要旨）

春季彼岸法要のご案内

三月	午前十時より	午後二時より
十八日(火)	○	○
十九日(水)	○	吹上
二十日(木)	吹上	
二十一日(金)お中日	○	○

（○の日時にあります）
・講師　原中　秀峯先生（福岡県）

春季永代経法要のご案内

・期日　四月十九日（土）
　四月二十日（日）
・時間　朝席　十時より
　昼席　二時より
・講師　田中　広文先生（福岡県）

※永代経の志納をおあげになりたい方は遅くとも四月十日までに寺へご相談ください。是非この機会におあげください。
（永代経志納のお勤めは二十日の昼席に行います）
※永代経をあげておられなくてもどなたでも参加できます。せっかくのご法縁です。ご聴聞ください。

門徒会費のお願い

平成二十六年度の門徒会費のご負担、ご協力をお願いいたします。
金　額　年額　二千円
■納入方法
①ご自宅へお参りに伺った際に収めていただく。
②寺へ持参される。
③同封の振込用紙を使い、近くの郵便局から振り込む。
（手数料は不要です）
■納付期限
五月末までにお願いします。

「門徒会費」は、興照寺門徒としての自覚を持っていただくとともに、寺の運営活動の一助とする事を目的としています。また、会費納入者の名簿を基に年回忌法要等の案内も行っています。
彼岸に寺で納金される際は、懇志と区別して、〝門徒会費〟ですと明示してください。また、領収の半券を忘れずにお受け取りください。

納骨堂管理費のお願い

納骨壇をお持ちの方につきましては、管理費の納入をお願いいたします。
金　額　年額　一万円
振込用紙に門徒会費・管理費の合計の金額が記入されていますので、門徒会費の納入方法と同じ要領でお願いいたします。

花祭り

・日　四月六日（日）
・時間　十一時より
・場所　興照寺本堂
（和順会総会も合わせて行います）

＊花祭り関係諸募集＊

●余興参加者
踊り・カラオケ・詩吟・楽器演奏等の参加者を募集します。ふるってご参加ください。
●帰敬式参加者
帰敬式とは法名を受ける式です。法名は本来生前に受けるものです。当寺では、花祭りの際に行っています。是非この機会にお受けください。
帰敬式の受式希望の方、余興参加希望の方は、三月三十一日までにご連絡ください。

諸会会員を募集しています

◎親厚会（男性の会）
毎月十七日十八時より
◎婦人会
毎月十二日十二時より
◎和順会
どなたでもお入りいただけます。
四月の第一日曜日に花祭りを兼ねた総会を開いています。

いずれの会もいつでも入れます。寺の維持活動の一助ともなります。多くの方の参加をお待ちしています。詳しくは寺へお問い合わせ下さい。

お盆参りについてお願い

お盆のお参りについて、門徒会費の振込用紙を利用して皆様のご希望をお伺いいたします。
詳しくは同封別紙をお読みください。

納骨堂募集

古い納骨壇にも空きが出ました。
ご希望の方が居られましたらご連絡ください。

三月半ばより住職長男〝英之〟が法務に就くことになりました。これまでも盆参りを手伝ってまいりましたが、これからはかねてのお参りもいたします。何かと不慣れな点もありましょうが宜しくお願いいたします。

あとがき

今年も二ケ月が過ぎました。東京などは大雪で大変苦労をしていましたが、鹿児島は雪が降る事も無くまずは穏やかな始まりかと思います。私自身も子供が寺の仕事をして手伝ってくれることになり、ありがたい穏やかな今日この頃です。
しかし、こういう時こそ次の準備をとの思いも起ってきます。煩悩の多い事です。